

専門試験「行政」に 選択解答制問題集の導入!!

これまでの40題必須解答制問題集のほかに
2種類の選択解答制問題集を追加いたしました。

専門試験「行政」の問題集ラインナップ

—採用ニーズに合わせて問題集を選択できます—

平成29年度から統一試験日に提供する専門試験「行政」（大学卒）の問題集が以下のA～Cの3種類になります。AとBが新たに提供する選択解答制問題集です。

A 選択解答制問題集 6分野型 【行政S-6】

・10分野(50題)出題中、6分野(30題)選択 解答時間1時間30分

B 選択解答制問題集 8分野型 【行政S-8】

・10分野(50題)出題中、8分野(40題)選択 解答時間2時間

C 必須解答制問題集(従来型:これまでと同じもの) 【行政E】

・40題必須解答 解答時間2時間

試験を実施されるそれぞれの団体が採用ニーズに合わせてA～Cの問題集を選ぶことができます。
特に新しい選択解答制問題集は、次のような団体にお勧めいたします。

受験者の負担が重くならないよう、
大学の専攻や得意分野を中心に
解答できる試験にしたい。

これまでの法学部、経済学部以外の
学部の学生にも幅広く
受験してもらいたい。

専門能力は必要。
しかし応募者は増やしたい。

多様な人材、特に国際分野に
強い人材が欲しい。

民間企業を
第一志望としている受験者にも、
あまり準備しないで受けられるような
試験にしたい。

公務員予備校で、
専攻分野以外の分野を勉強する
必要がない試験にしたい。

選択解答制問題集の出題分野

—受験者が分野を選択して解答します—

選択解答制問題集では、以下の10分野からそれぞれ5題ずつ出題されます。出題分野及び問題は6分野型、8分野型とも共通です。

- ① 憲法
- ② 行政法
- ③ 民法
- ④ 経済理論
- ⑤ 経済政策・経済事情
- ⑥ 財政学・金融論
- ⑦ 社会政策（社会福祉や社会保険などの社会保障と雇用）
- ⑧ 政治学・行政学
- ⑨ 国際関係
- ⑩ 社会学・教育学

6分野型であれば6分野（30題）を、8分野型であれば8分野（40題）を、試験開始後に受験者が任意に選択します。問題を選択するのではなく分野を選択するので、受験者は選択した分野の5題全てに解答する必要があります。

選択の例（6分野型の場合）

解答分野の多くを大学での専攻分野や隣接分野でカバーすることが想定されます。

法学専攻者 ● 憲法、行政法、民法、政治学・行政学 +2分野

経済学専攻者 ● 経済理論、経済政策・経済事情、財政学・金融論、社会政策 +2分野

国際関係専攻者 ● 国際関係、政治学・行政学、憲法、経済政策・経済事情 +2分野

社会学（教育学）専攻者 ● 社会学・教育学、社会政策、政治学・行政学、憲法 +2分野

採点

- 採点結果における得点（標準点）の算出は、「6分野型」、「8分野型」、「従来型」のそれぞれで行います。
- 分野ごとの点数の調整は行いません。
- 所定の分野を超えて解答した場合、解答した分野番号（例えば、憲法は1、国際関係は9）が小さいものから順に6分野（又は8分野）を採点します。

料金

教養科目と併用：1,400円
単独で利用：1,900円